

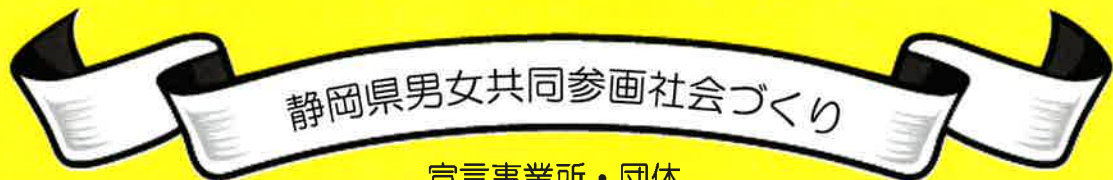


epooca

エポカ vol.126

静岡県男女共同参画センター・あざれあ情報誌

2017年6月号



静岡県男女共同参画社会づくり

宣言事業所・団体

宣言事業所・団体 1,523件
(平成29年5月12日現在)

(株)るるキャリア (静岡市)

●女も男も働き方を変えよう！

(株)るるキャリアは、女性活躍推進、ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業・団体のコンサルティングや、女性が自分の働き方・キャリア・将来について考えるコミュニティ“働く女子大学 うるおいプラス”の運営など、働く女性をとりまくさまざまな環境の支援をしている。

社長の内田美紀子さん(写真)の他に社員は女性3人。うち2人は小さな子どもがいるため、曜日社員というシステムを取り、各曜日交代で勤務、同じ業務を2人でシェアしている。SNSで業務の進捗状況を共有し、月に1回2人が顔を合わせる日を設け、業務に漏れのないよう注意を払う。残業は基本的にない。働く女性とその環境を支援・整備しているという会社だけあって、社員のワーク・ライフ・バランスやキャリアアップなどに配慮が行き届いている。

内田さんは、人材ビジネスの運営や、キャリア相談など女性の就労・キャリア支援に長年従事してきた中で、働く女性をとりまく環境を変えていくためには、企業側を変えていくこと、女性自身が力をつけていくことの両方が必要と考え、2012年(株)るるキャリアを立ち上げた。

「働く女性の環境はここ数年で大きく変わりました。育休取得後の復職率は高くなり、長く働くための制度は整えられてきています。しかし、キャリアアップという点では昔とほとんど変わっていません。両立支援策は導入されたものの、企業の組織風土は改善されていないからです。また、子どもを預けたくても預けられる場所が少ないことも社会的課題です。その他、身近にロールモデルがないことで、キャリアアップをあきらめてしまうという女性自身の問題もあるといえます。

企業にとって、どうやったら人材が100%以上の力を発揮でき、利益を上げ業績を伸ばせるかを考えた時、そのひとつの方法として女性活躍推進が挙げられます。これは女性だけの問題ではありません。管理職(そのほとんどが男性)が変わらなければ状況は変化しないのです。女性だけでなく男性も含めて意識・働き方の改革をしていかなければ、少子化や労働者不足という問題に太刀打ちできないでしょう。

あと20年位で働き方は大きく変わっていくのではないのでしょうか。今も進みつつあるリモートワークが更に進むでしょうし、評価の仕方が勤務時間に対してではなく、時間当たりの成果に代わっていくでしょう。育休復帰後の時短勤務の女性管理職や、雇用という働き方にこだわらず、フリーランスや副業といった形態で働く人が今より増え、多様な働き方が当たり前になる時代が来ると思っています」



落合 美恵子さん（特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク 代表理事）



★行政に頼らない、自助と共助の防災力

この活動を始めたきっかけは 2004 年の新潟県中越地震です。当時ファイナンシャル・プランナーとして相談業務を始めていました。中越地震で疑問に思ったのは、災害が起きた時、住宅ローンの計画などの生活設計はどうになってしまうのだろうかということです。そこで、お金に関する現地調査・取材をしようと、小千谷市や越路町、山古志村に入り、現地の対策本部や総合病院、商店街、仮設住宅などをまわりました。いろいろな人から話を聞き、状況を目の当たりにして感じたのは、お金の話しは二の次、三の次。まず生き残ることが最優先、命を繋がないければ生活設計の話もできないということ、災害の際は行政職員も被災者であり、行政に頼りすぎてはいけないということでした。

この中越地震の現場で経験したことを御前崎市民に伝えていきたいと、その後防災士や災害ボランティアコーディネーターの養成講座を受講し勉強しながら、徐々に仲間を募りつつ、2008 年 4 月、正式に「御前崎災害支援ネットワーク」を立ち上げました。私たちの活動の目的は、いざという時行政に頼らず、自分で自分の命、家族の命を守るための自助努力と協働力を高めること、女性の防災リーダーを育成すること、女性や高齢者、障がい者に配慮した防災について啓発することです。

★女性防災リーダーを育てたい

2011 年の東日本大震災の後、県の地域防災活動推進員として 2 年間、各地の自主防災組織の調査をし、分かったのは、自主防災組織の役員に女性がほとんどいないということです。

1995 年の阪神淡路大震災の時、災害時における女性特有のリスクに関心が集まり、東日本大震災でも問題になりました。被災し避難所生活を送る女性たちの中には、自身のからだの健康（生理、膀胱炎）や子育て、家族の介護、暴力（性暴力、DV）など困難な状況を抱えることになる人が多くいます。彼女たちは、避難所での困りごとに対して要望したり声を上げたりすることを我慢しがちだという実態があり、その背景には、避難所運営のほとんどが男性中心で行われ、女性特有の問題に配慮が行き届かないということがあるといえます。

この問題を何とかしよう、女性の防災リーダーを育成しようと講座を企画し、御前崎市で毎年「女性のための防災・減災リーダー養成講座」を実施して 5 年になります。養成講座受講者の中から、リーダーとして自主防災女性の会などで防災を担う人材が育ち、だんだん活動が広まっています。

★防災の未来に想いをさせる

これからは、学校教育の一環として防災について学ぶ機会をつくるのが重要ではないでしょうか。防災訓練だけでなく授業科目のひとつとして防災教育を導入すべきだと思います。これだけ自然災害がある国で、子どもたちが小さい頃から災害の危険性や自分の命は自分で守ることを学習し、防災力を身につけていくことが次の世代へ防災意識を繋げていくことになります。

東日本大震災時の“釜石の奇跡”のように、「大きな地震が発生した時には、必ず津波が来るから自力で逃げろ」という教えが子どもたちに根付いていたからこそ繋ぐことができた命があるのです。そういった教育の中で、女性や高齢者、障がい者への配慮も学ぶことができれば、いざという時に生きてくるでしょう。

平時から危機意識を持ち、防災を他人ごとではなく、自分ごととして捉えること、行政が何もかも助けてくれるという幻想を捨てるのが、あなた自身とあなたの家族の命と生活を繋ぐことになるのです。

ブックサポーター 37 女性と防災

『女性目線で徹底的に考えた防災BOOK』



（マガジンハウス 2016年）

災害から自分や家族を守るために、何をどのくらい備えておけば安心でしょうか。本書では、女性の目線から、被災してわかった必要なモノ、被災時の様々な状況で冷静に行動するための知識などが紹介されています。

『福島のお母さん、聞かせて、その小さな声を』



（棚沢明子 彩流社 2016年）

福島で被災したお母さん 10 人の体験を丁寧聞き書きした一冊。「避難したのか、しなかったのか」「賠償金をもらったのか、もらえなかったのか」それぞれの違いにより生まれる心の軋轢など、彼女たちを取り巻く現状や苦悩が伝わってきます。



図書室利用案内

貸 出：図書 5 冊、ビデオ・DVD 2 本（2 週間）
開室時間：月～金 9:00～18:00 土日祝 9:00～17:00
休 室 日：第 1・3・5 日曜日、図書整理日
TEL：054-255-8763 / FAX：054-255-8759

静岡県男女共同参画会議委員 募集

- 【仕事内容】 年2～3回程度開催予定の会議に出席し、男女共同参画の推進に関する施策等について審議
- 【応募資格】 県内に居住する年齢20歳以上の男女で、男女共同参画の推進に関心のある方
- 【募集人員】 4名以内
- 【任期】 2年間（平成29年12月1日～平成31年11月30日）
- 【報酬等】 県の規程による謝金と旅費
- 【応募方法】 専用応募用紙に必要事項を記入の上、小論文を添えて提出
応募用紙ダウンロード www.pref.shizuoka.jp/ → **男女共同参画課** で検索
- 【募集期間】 平成29年7月1日（土）～7月31日（月）（当日消印有効）
- ◎問合せ・応募先 静岡県男女共同参画課 TEL：054-221-2824

レクチャー＋映画上映会

入場無料！

平成29年度三島市×あざれあ協働事業「女性と政治参画」

『百年後の私たちが受け取った花束をその先に...』

～権利を求めてたたかった女性たちの志を私たちが繋げるために
今未来に向けてできること～

日本での女性参政権獲得から70年、当時の女性たちが今を生きる私たちに残したものは・・・
レクチャーの後、1910年代のイギリス女性参政権運動についての映画「未来を花束にして」を鑑賞します



© Pathe Productions Limited, Channel Four Television Corporation and The British Film Institute 2015. All rights reserved.

【レクチャー】 久保 公子さん（市川房枝記念会 女性と政治センター 事務局長）

【映画上映会】 「未来を花束にして」（2015年 / イギリス）

【日時】 平成29年7月22日（土）13:00～16:00

【場所】 三島市民生涯学習センター 3F 講義室

お申込みはあざれあまで
TEL：054-250-8147

イマドキの小学生のジェンダー意識

を探る新シリーズ！小学生ってジェンダー意識を持っているんでしょうか？
あるいは、まったく持っていないんでしょうか？

小学生に聞く！



カズマ
小1

－女の子と男の子、どこがちがう？

女の子は坊主とかまるっぽげが嫌い。男の子は短い髪の毛の人が多いし好き。

－自分のどんところが好きですか？

のうみそ。ちょっとはかしこいから。

－大人になったら、なにをする？

茶っふる（茶町 KINZABURO）でいっぱい働く。家から近いし。

－生まれ変わるならどちら？

男になりたい。

－なぜ？

はっきりしているから。

男はドラゴンボールとかポケモンとか妖怪ウォッチとか好き。

男になれて超ラッキー。

6月23日～29日は、「男女共同参画週間」です。

今年度のキャッチフレーズは

「男で○、女で○、共同作業で◎。」

あざれあ1F・2F展示
コーナーでパネル展示、
図書室でDVD上映会も
実施！

地元のハンサムウーマン⑨

～地域力を高める女性たち～

北川 有香さん (my posture・島田市男女共同参画啓蒙推進員など／島田市)



北川 有香さん

★産後女性の案内人

17年前、長女を出産し初めての子育てが始まった。当時、長女のアトピー性皮膚炎がひどくどうしたらいいのか分からないにもかかわらず、まわりに相談できる人もいなく、娘がこうなったのは自分のせいだと自責の念に囚われながら、家にもって育児をしていた。とてもしんどかった。

今やっている産後女性を支援するもろもろの活動は、当時の自分自身の経験から、同じような育児の辛さを抱えている女性を応援したいから。

出産後、待たなしの育児が始まるママたちは、赤ちゃんの世話のことで頭がいっぱい。子育ての責任感から、自分自身の心身のケアに目が行き届かなかったり、ストレスをひとりで抱え込んでしまいがち。

ママたちがこころの悩みやからだの辛さに耳を傾け、産後ケアすることは、彼女たちが快適に育児に取り組めるだけでなく、子どもや家族、地域にその効果は波及し、健全な子どもの発育や夫婦間の円滑なコミュニケーション、地域の連携などの環境を整えることにつながると考える。

島田市を中心に7団体ほどの活動に関わる。人と人をつなぐパイプ役。悩める産後女性と地域や支援者をつなぎ、心身の健康を通してひとりひとりのママたちが自信を持って育児に取り組めるよう導く。

高校生と中学生2人の子どもの子育てをしながら地元企業でパート勤務。趣味はジャズ。地元のジャズバンドに所属し、サックスを楽しむ。ジャズバンドで自分の時間を確保し、家族から離れ一息つくのが最高のリラックスタイムだ。

あざれあ相談

悩んだとき、困ったときには、あざれあへ

女性相談

すべて女性の相談員、医師、弁護士による相談です。安心してお電話ください。



0558-23-7879 賀茂
055-925-7879 東部
054-272-7879 中部
053-456-7879 西部

※混み合う場合がございます。時間をあけておかけ直してください。

月・火・木・金 9:00～16:00

水曜日 14:00～20:00

第2土曜日 13:00～18:00

※いずれも日・祝を除く

面接

要予約・託児つき・無料
あざれあ女性相談の番号におかけください。

月	火	水	木
DV・ その他暴力 10:00～15:00	第3 弁護士相談 13:00～16:00	DV・ その他暴力 14:00～19:00	DV・ その他暴力 10:00～15:00
	偶数月第4 精神科医相談 14:00～16:00		

男性電話相談

生き方・家庭・仕事・健康等の悩み、男性相談員が対応します。

毎月第1・3土曜日 13:00～17:00

※つながらない場合は、少し時間をおいてかけ直してください。
※第1・3土曜日が休館日の場合、次の週の土曜日に相談を実施します。

専用電話 054-272-7880